

令和6年度

生物多様性に関する企業意識アンケート

報告書

(環境局 環境都市推進部 環境共生担当課 実施)

～実施概要～

調査目的	生物多様性保全の取組を推進するための基本指針である「生物多様性さっぽろビジョン」に基づく施策をより効果的に推進するため、事業者の生物多様性に係る意識やニーズを的確に把握する。
調査時期	令和6年12月19日(木)～令和7年1月30日(木)
調査方法	ホームページ上にアンケート及び回答フォームを掲載
調査対象	札幌市内事業者
周知方法	・札幌商工会議所メールマガジン：約7,000件 ・さっぽろ産業ポータル((財)さっぽろ産業振興財団)：約3,500件 ・環境中間支援会議・北海道の連携組織のHP・メールマガジン：約1,300件 ・北海道グリーン購入ネットワークメーリングリスト：約80団体 ・さっぽろエコメンバー事業者等へメールによる周知：約700事業者 ・コミュニティFM(三角山放送局)での紹介
回収数	89件

～目次～

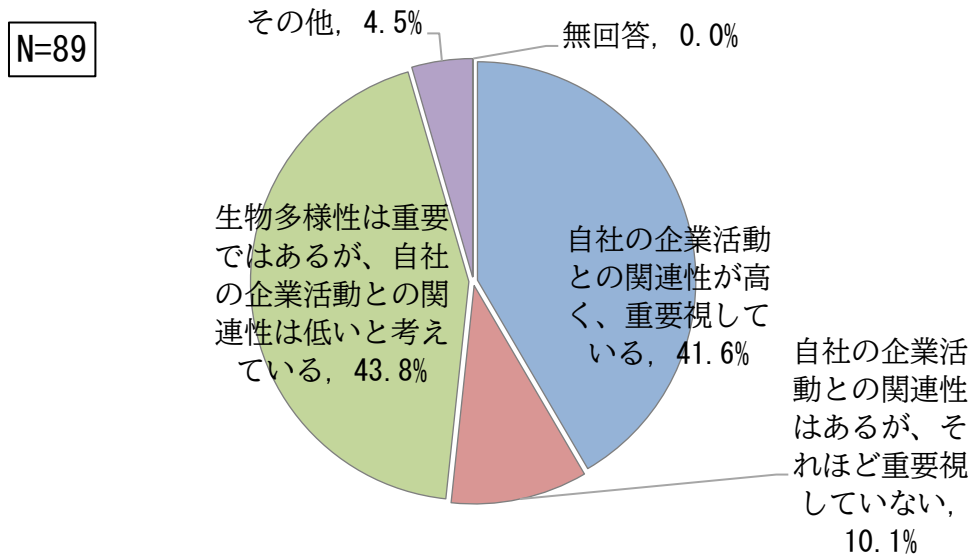
- (1) 生物多様性と企業活動のあり方に関する意識・・・・・・・・・・ P 2
- (2) 生物多様性保全の取組を行っている事業者の割合・・・・・・・・ P 3
- (3) 生物多様性保全の取組の内容・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 4
- (4) 生物多様性保全と費用の関係・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 6
- (5) これから実施したいと考えている生物多様性保全の取組・・ P 7
- (6) 他者が行う生物多様性保全の取組の中で関心のあるもの・・ P 8
- (7) 生物多様性保全の取組に必要な支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9
- (8) 回答企業について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ P 9

令和7年3月
札幌市環境局

(1) 生物多様性と企業活動のあり方に関する意識

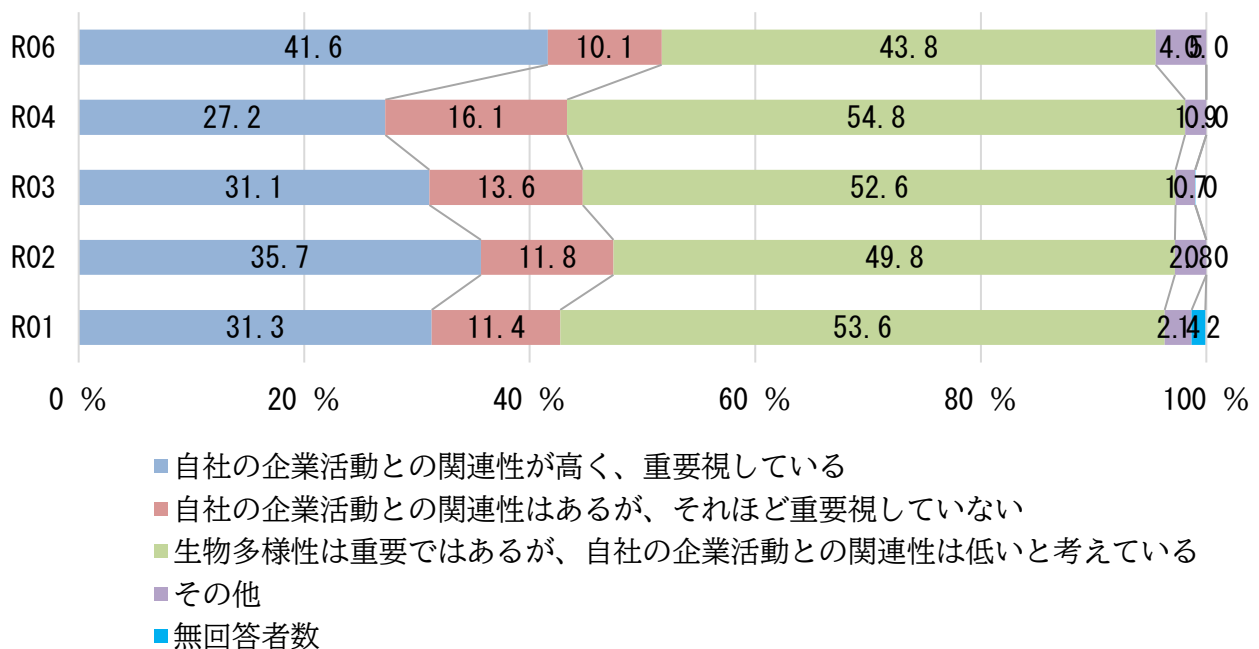
【問1】貴組織では、生物多様性の保全への取組と企業活動のあり方についてどう思われますか。1つ選んで下さい。

生物多様性の保全への取組と企業活動のあり方について、「自社の企業活動との関連性が高く、重要視している」企業は41.6%。



○過去のアンケート結果との比較

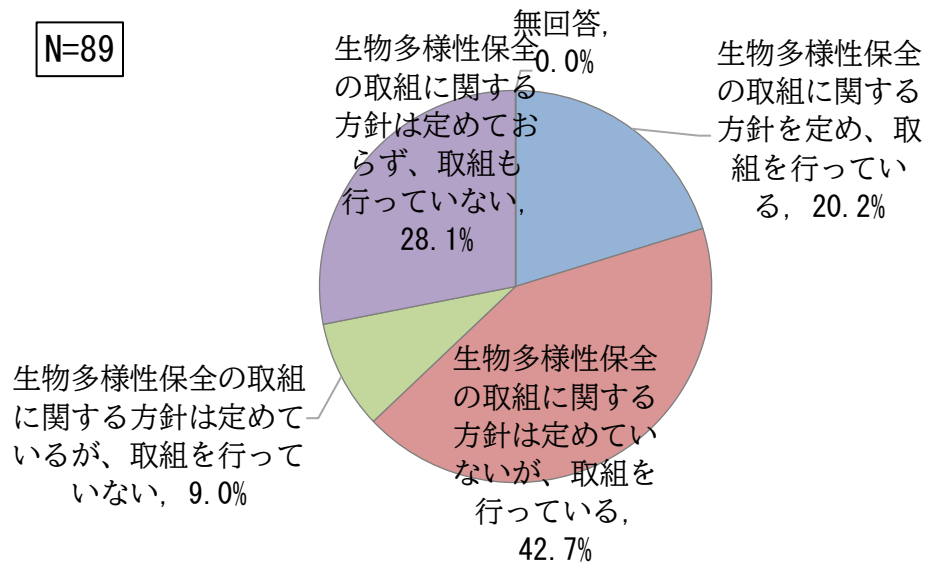
「自社の企業活動との関連性が高く、重要視している」の割合は4割を超え、ここ数年で最も高くなった。



(2) 生物多様性保全の取組を行っている事業者の割合

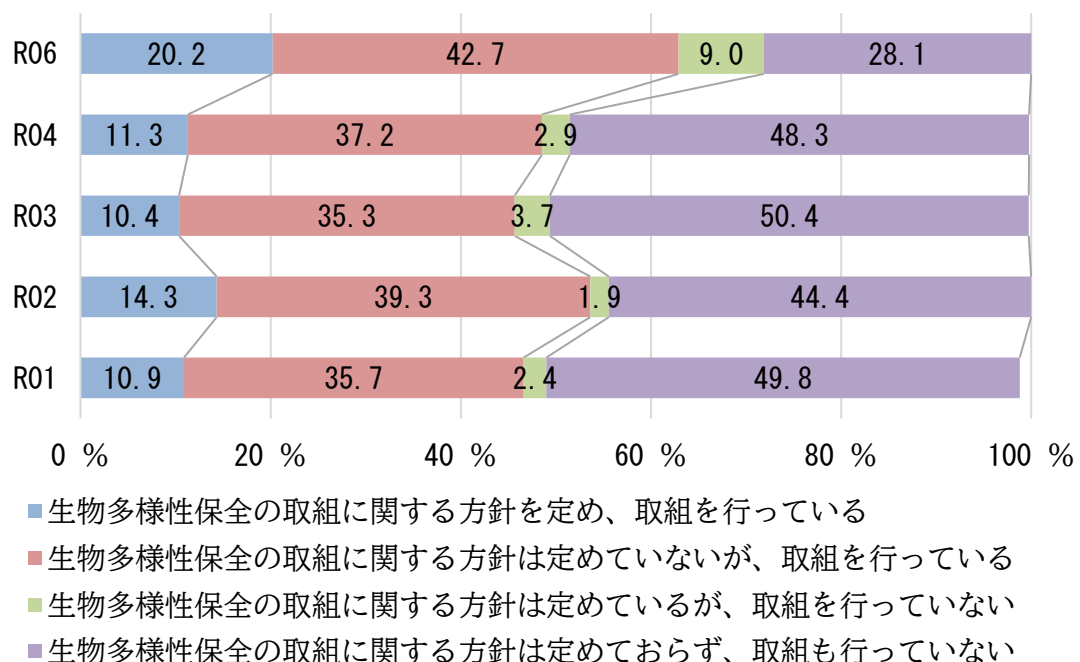
【問 2-1】貴組織では、環境に対する経営方針あるいは事業活動の中で、生物多様性の保全への取組について、どのように位置付け、取り組んでいますか。1つ選んで下さい。

生物多様性の保全への取組について、「方針を定め、取組を行っている」＋「方針は定めていないが、取組を行っている」は 62.9%。



○過去のアンケート結果との比較

取組を行っている企業の割合はここ数年で最も高くなり、6割以上の企業で何らかの取組を行っていた。



(3) 生物多様性保全の取組の内容

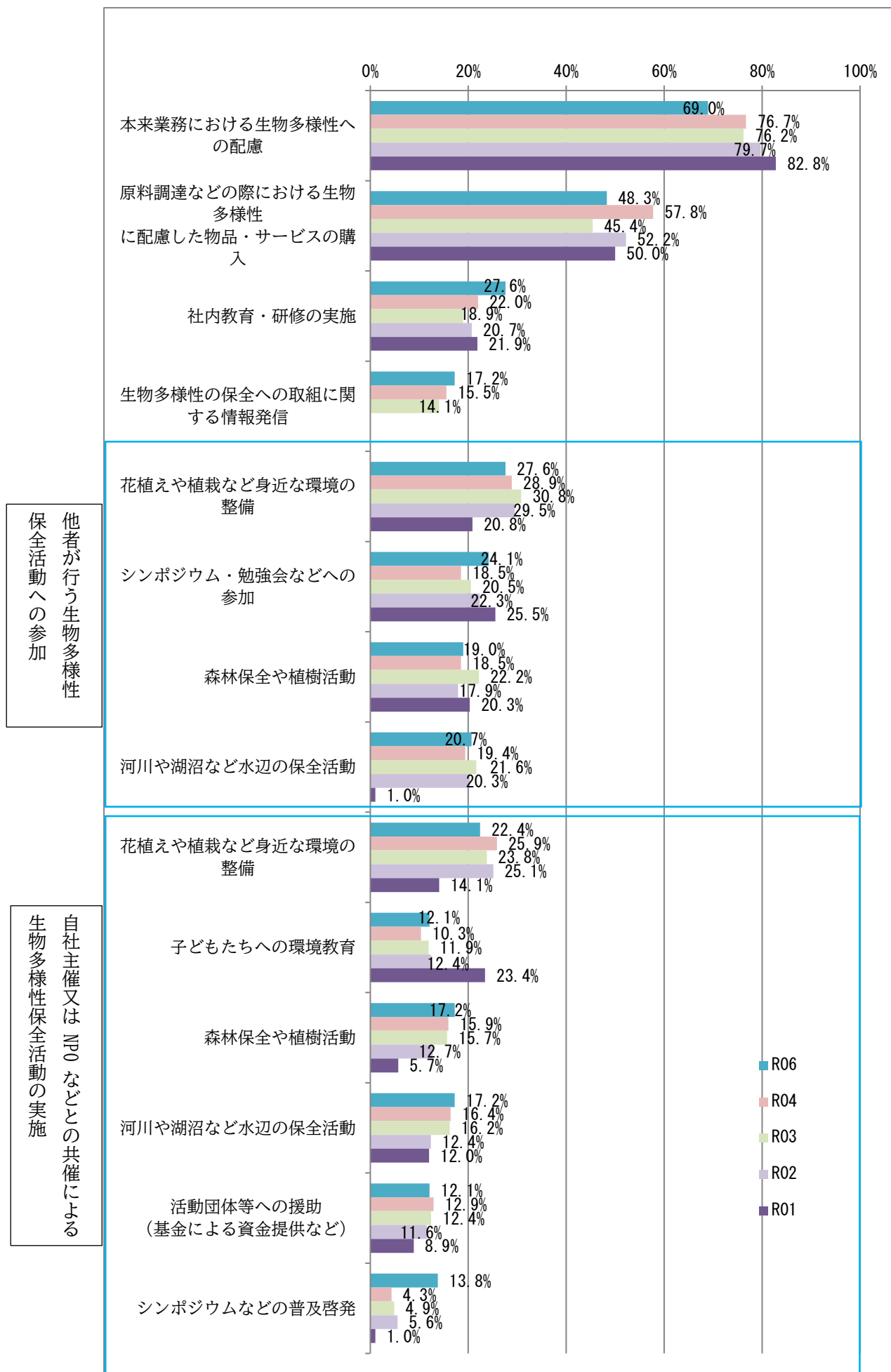
【問 2-2】問 2-1 で①（方針を定め、取組を行っている）、②（方針は定めていないが、取組を行っている）と回答された方にお伺いします。生物多様性の保全への取組として、貴組織が行っているものをすべて選んで下さい。

生物多様性の保全への取組として、「本来業務における生物多様性への配慮」が 69.0%、
「原料調達などの際における生物多様性に配慮した物品・サービスの購入」が 48.3%。

○過去のアンケート結果との比較

「社内教育・研修の実施」はここ数年で最も高く、3割近くの企業が取り組んでいた。

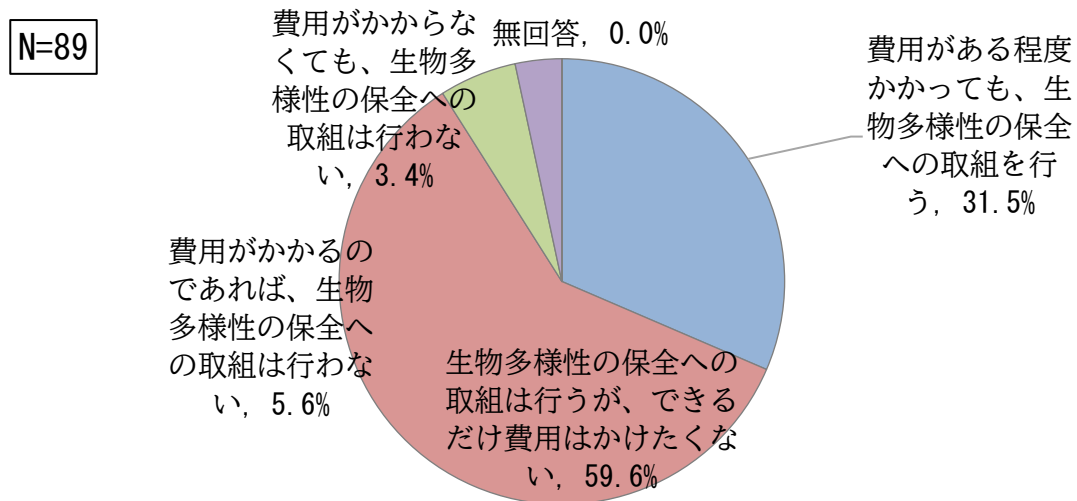
また、「生物多様性の保全への取組に関する情報発信」についても2割近くの企業が取り組んでいた一方、「本来業務における生物多様性への配慮」及び「原料調達などの際における生物多様性に配慮した物品・サービスの購入」については、前回調査より減少している。



(4) 生物多様性保全と費用の関係

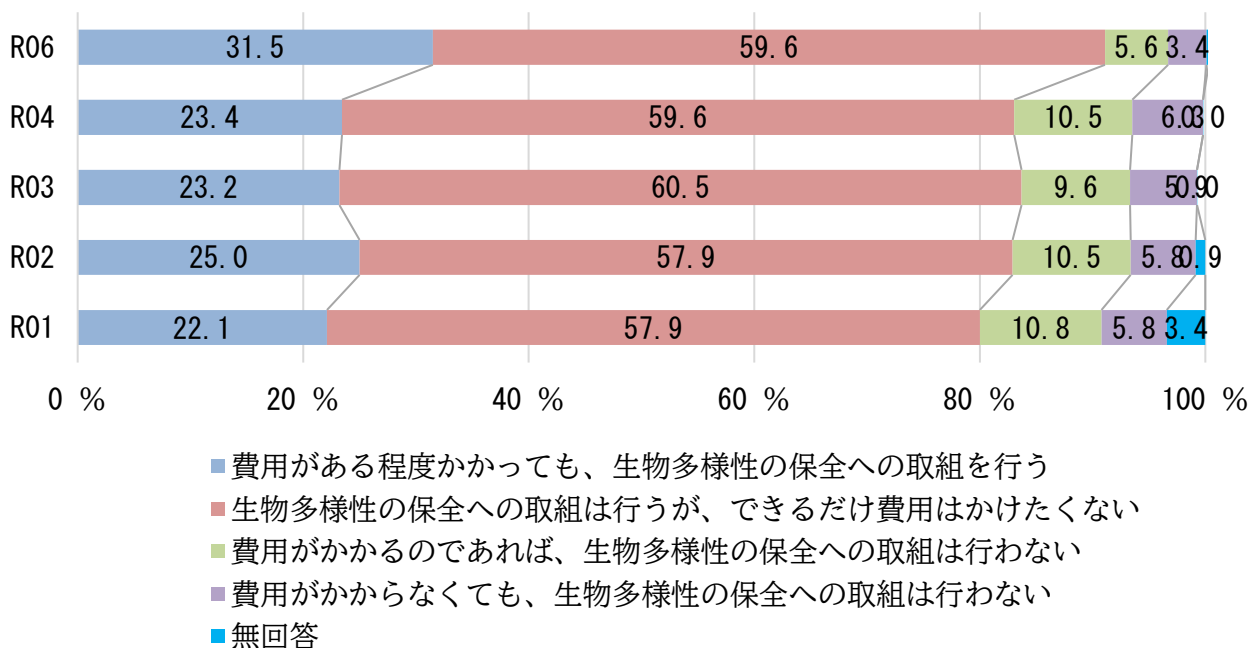
【問 3】生物多様性の保全への取組を実施する際の貴組織の考え方として、当てはまるものを選んでください。

生物多様性の保全への取組を実施する際の考え方として、費用がかかっても取組を実施する企業は31.5%、取組は行うができるだけ費用はかけたくない企業が59.6%。



○過去のアンケート結果との比較

生物多様性の保全への取組を行う意思のある企業（「費用がある程度かかっても、生物多様性の保全への取組を行う」＋「生物多様性の保全への取組は行うが、できるだけ費用はかけたくない」）の割合は、ここ数年8割以上で推移しており、令和6年度は9割を超えている。



(5) これから実施したいと考えている生物多様性保全の取組

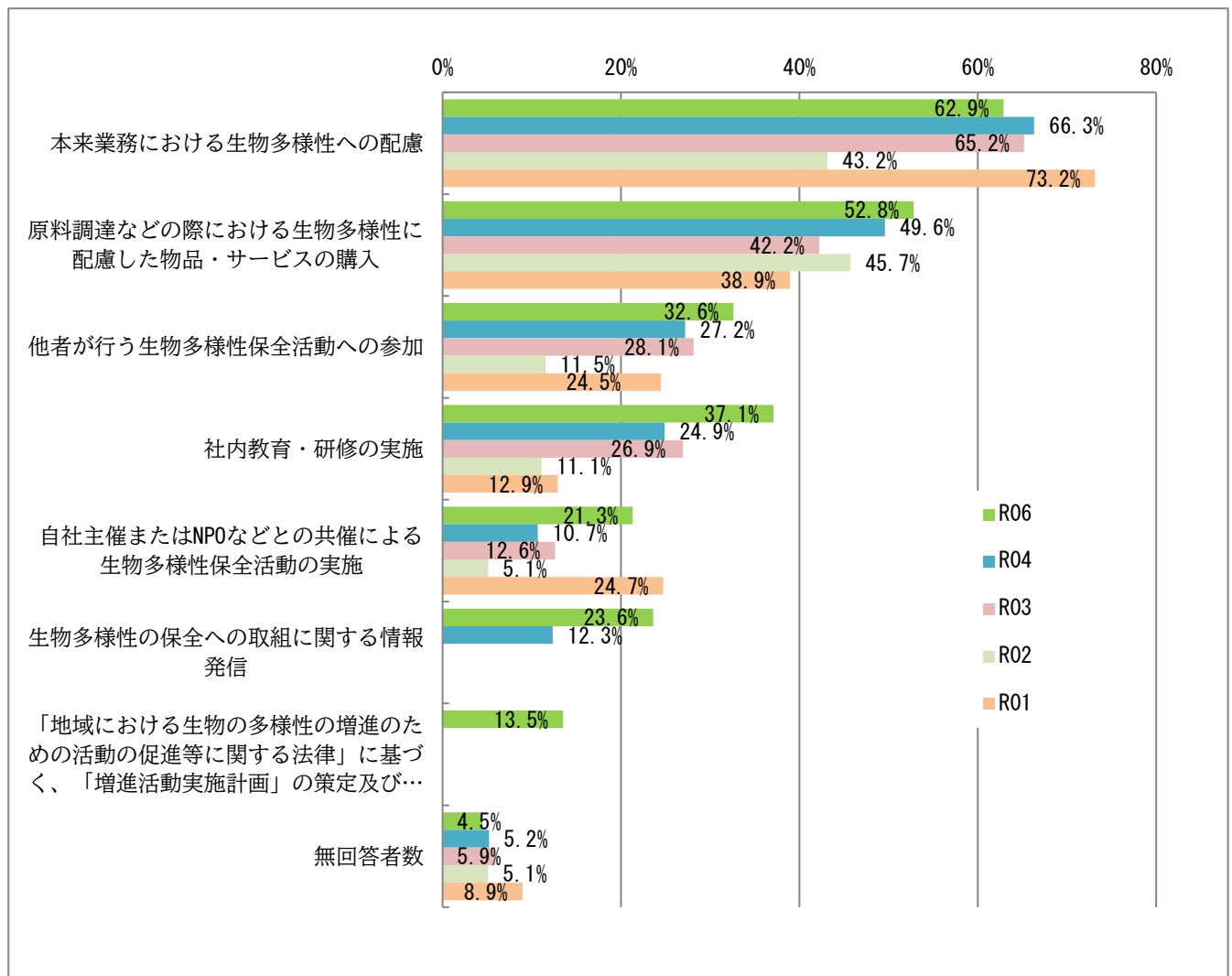
【問 4-1】生物多様性の保全への取組として、貴組織がこれから行いたいと考えているものをすべて選んで選択肢の番号にチェックを付けて下さい。

これから実施したいと考えている生物多様性の保全への取組として、「本来業務における生物多様性への配慮」が 62.9%で最も高く、次いで「原料調達などの際における生物多様性に配慮した物品・サービスの購入」が 52.8%であった。

○これまでのアンケート結果との比較

「社内教育・研修の実施」が 37.1%と令和 4 年度の 25%程度から 10 ポイント以上の増加が見られた。また、令和 4 年度より回答の選択肢に加えた「生物多様性の保全への取組に関する情報発信」の割合が 23.6%となり令和 4 年度より倍増している。

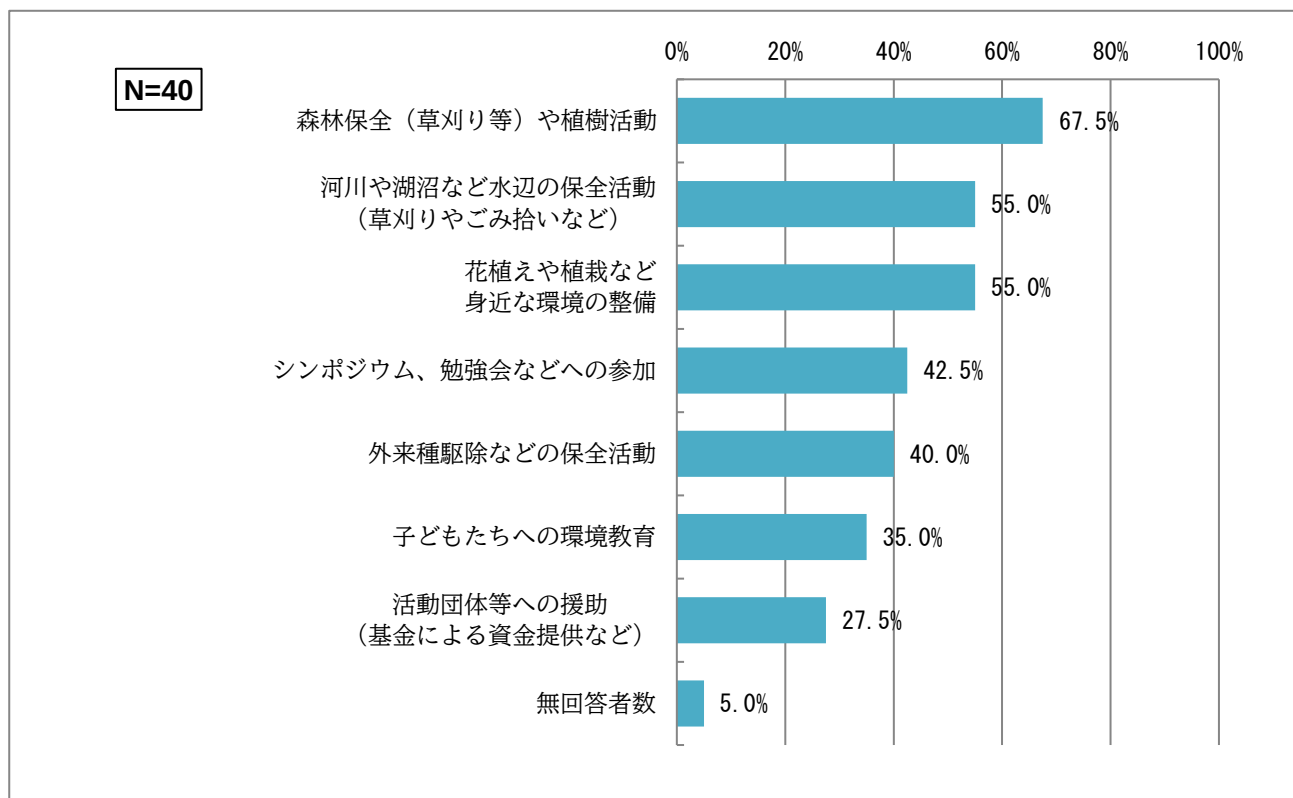
※ 今年度から選択肢に加えた、「地域における生物の多様性の増進のための活動の促進等に関する法律」に基づく、「増進活動実施計画」の策定及び実施については、策定企業が 13.5%となっているが、策定団体は現在 2 団体であることから、選択肢の主旨が上手く伝わっていないことが想定される。



(6) 他者が行う生物多様性保全の取組の中で関心のあるもの

【問 4-2】問 4-1 で③（他者が行う生物多様性保全活動への参加）、④（自社主催または NPO などとの共催による生物多様性保全活動の実施）と回答された方にお伺いします。貴組織が関心を持っている他者（活動団体等）が行う生物多様性保全活動の取組をすべて選んで下さい。

関心を持っている他者（活動団体等）が行う生物多様性保全活動の取組として、「森林保全（草刈り等）や植樹活動」が 67.5%と最も多く、次いで「河川や湖沼など水辺の保全活動（草刈りやごみ拾いなど）」及び「花植えや植栽など身近な環境の整備」が 55.0%で続いている。



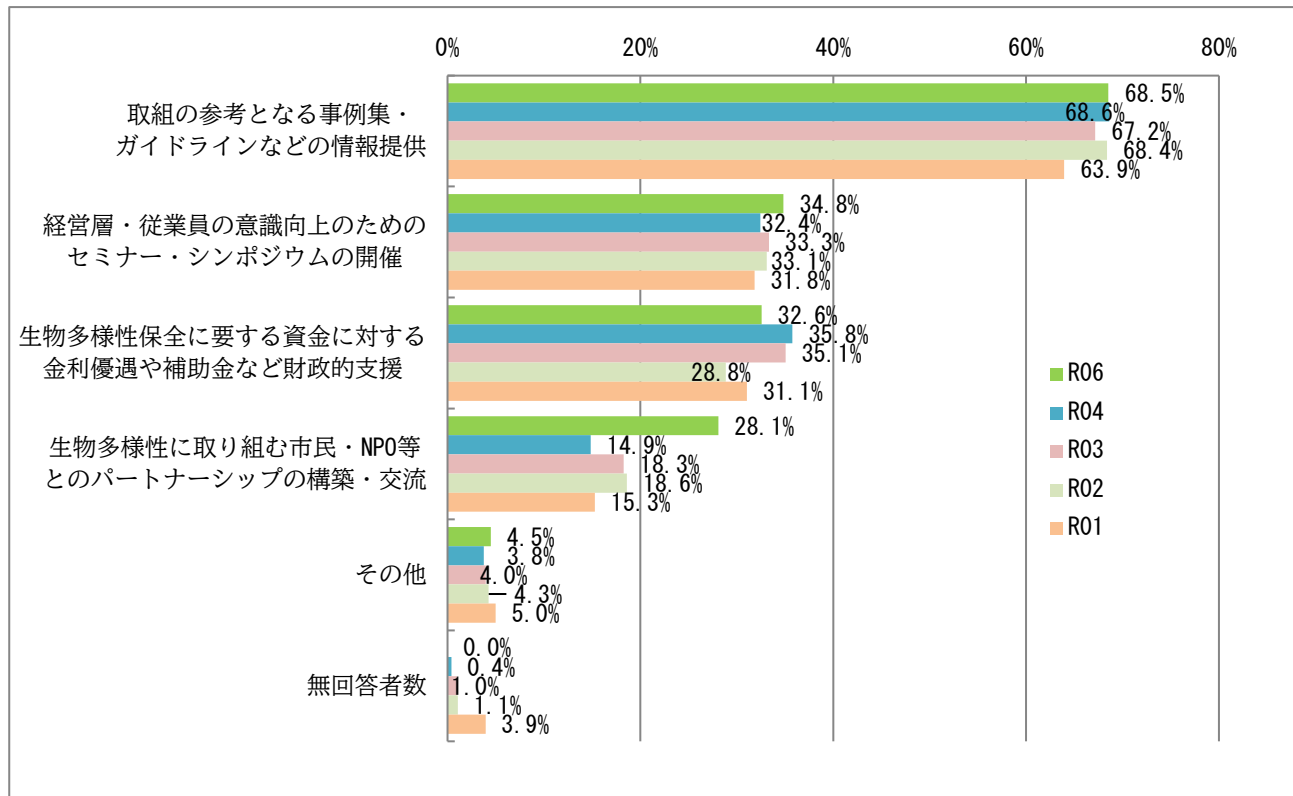
(7) 生物多様性保全の取組に必要な支援

【問 5】今後、貴組織が生物多様性の保全への取組を進めていくための支援として、何が必要だと考えますか。当てはまるものすべてを選んで下さい。

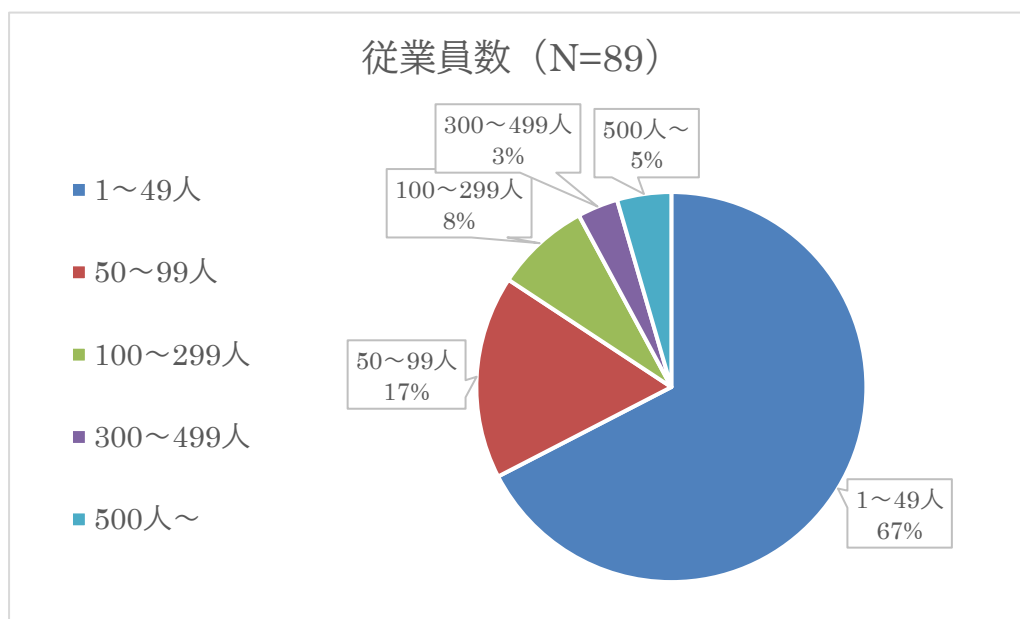
生物多様性の保全への取組に必要な支援として、「取組の参考となる事例集・ガイドラインなどの情報提供」が 68.5%と最も多くなっている。

○過去のアンケート結果との比較

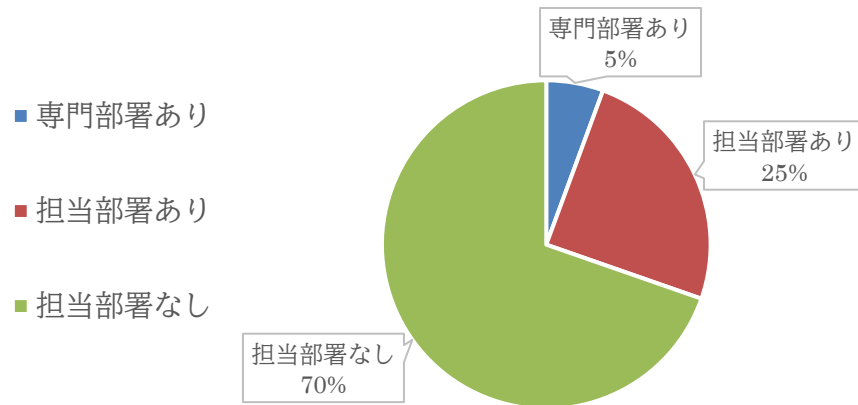
「生物多様性に取り組む市民・NPO 等とのパートナーシップの構築・交流」が 28.1%となり、令和 4 年度以前の 10% 台より 10 ポイント以上増加している。



(8) 回答企業について



担当部署の有無 (N=89)



業態 (N=95、複数回答あり)

- 農林業
- 建設業
- 製造業
- 電気・ガス・熱供給・水道業
- 情報通信業
- 運輸業、郵便業
- 卸売・小売業
- 金融・保険業
- 不動産業、物品賃貸業
- 学術研究、専門・技術サービス業
- 宿泊業、飲食サービス業
- 生活関連サービス業、娯楽業
- 教育・学習支援業
- 医療、福祉
- 他サービス業

